

「ペンギン・ハイウェイ」は、生駒神話の主人公(登美彦)をペンネームとするほど生駒を愛す生駒育ちの小説家である森見登美彦さんによって書かれた、生駒市北部のまちを舞台とする素敵な物語です。



大事なことは皆で考え決めよう会

【2】写真



【1】小説の中の地名等と実際の地名等

(1) 小説の中の地名等



- ①「地球脱出船みたいに見える給水塔」
- ②「大きなまるいタンク」
- ③「丘に続くコンクリートの階段」
- ④「丘」
- ⑤「市営グラウンド」
- ⑥「森をぐねぐねと抜けていく小道」 / 「林道」 / 「ペンギン・ハイウェイをたどった道」
- ⑦「ジャバウォックの森」
- ⑧「高圧鉄塔」
- ⑨「風雨にさらされた長いコンクリートの階段」 / 「市営グラウンドの裏のほうへのぼる階段」
- ⑩「二車線道路」
- ⑪「バスターミナルの裏にある森」
- ⑫「ペンギンたちが生まれた」「バスが方向回転する広場」 / 「バスターミナル」 / 「ぼくらの街の果て」 / 「ペンギンつくる」「実験場」
- ⑬「『トンネルくぐり』というスズキ君帝国の有名な刑罰に使われていた」「暗渠」
- ⑭「バス路線の終着駅で、つまりぼくらの街の果て」

(2) 実際の地名等



- ①真弓配水場の高架水槽 (現在は撤去されていて、跡地のみ残る)
  - ②真弓配水場の配水池 (給水タンク)
  - ③真弓塚の丘に続くコンクリートの階段
  - ④真弓塚の丘 (小説の中で給水塔と呼ばれていた①は、実際にはこの丘の麓にある)
  - ⑤北大和G (グラウンド)・野球場
  - ⑥北大和G・野球場の東側フェンス沿いの山道
  - ⑦北大和G・野球場の東側に広がる森林
  - ⑧高圧鉄塔 (現在は撤去され、笹や雑木におおわれた跡地のみ残る)
  - ⑨市営臨時駐車場と北大和G・野球場を結ぶコンクリート階段
  - ⑩市道押熊真弓線
  - ⑪近鉄けいはんな線登美ヶ丘車庫 (かつてオオタカが生息していた森は、現在は電車車庫となっている)
  - ⑫北大和地区計画でいう“地区施設 (バス回転広場)”
  - ⑬北大和G・野球場の西側に沿って走る水路が市道押熊真弓線の下をくぐって暗渠となる
  - ⑭北大和5丁目バス停 (かつてバス路線の終着駅であったが、そのときも実際には現在と同様に⑫にはなくこの位置にあった)
- \* 地図中の赤太字線が舞台探訪路で、● (北大和体育館入り口と真弓塚の丘の麓) は舞台探訪路の起点・終点です。



「いぐいぐブログ - 2」さんのHPより <右が「配水池」、左が「高架水槽」>

①「地球脱出船みたいに見える給水塔」(高架水槽)と②「大きなタンク(配水池) ← ↓



現在、高架水槽は撤去されている。

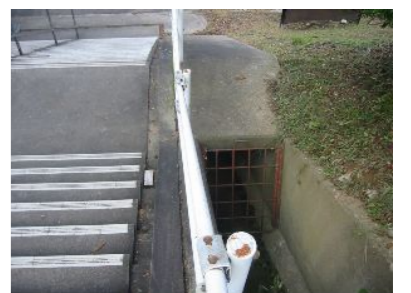
④「丘」 ↓



⑨「市営グラウンドの裏のほうへのぼる階段」 ↓



⑬「『トンネルくぐり』というスズキ君帝国の有名な刑罰に使われていた」「暗渠」 ↓



「暗渠」の入り口

③「丘に続くコンクリートの階段」 ↓



⑥「森をぐねぐねと抜けていく小道」 / 「ペンギン・ハイウェイをたどった道」 ↓



⑫「ペンギンたちが生まれた」「バスが方向回転する広場」 / 「ぼくらの街の果て」 / 「ペンギンつくる」「実験場」 ↓



<森見登美彦さんの自作紹介>  
 ~「ペンギン・ハイウェイ」は、わかりやすくいえば、郊外住宅地を舞台にして未知との遭遇を描こうとした小説です。(中略) 人間が理解できる領域と、人間に理解できない領域の境界線を描いてみようと思いました。郊外に生きる少年が全力を尽くして世界の果てに到達しようとする物語です。自分が幼かった頃に考えていた根源的な疑問や、欲望や夢を一つ残らず詰め込みました。~

小説「ペンギン・ハイウェイ」舞台探訪会 (2017. 10. 21/10. 28) で使用した「小説『ペンギン・ハイウェイ』舞台探訪 ガイドブック」(A4版27ページ) をご希望の方は、下記あて先まで「205円切手」をお送りください。その切手を使用して同ガイドブック(無料)を郵送でお届けいたします。  
 630-0121 生駒市北大和3-2-7 吉波伸治 (大事なことは皆で考え決めよう会代表)